

# 4種類のツールを活用した 自動校正システムのご紹介

当社では、工程や目的に応じて複数の自動校正ツールを使い分けています。人の目による確認と組み合わせることで品質の安定を図るとともに、DTP制作における効率向上、省力化、正確化に取り組んでいます。

## ■自動校正システム導入の背景

DTP制作は、依然として多くの部分が人の手による作業です。そのため、初校から校了に至るまですべての工程において100%正確な作業を行うことは現実的に難しく、少なからずヒューマンエラーは発生してしまいます。

当社では学習参考書、医学書、試験問題、IR資料、カタログなど、文字の正確性が強く求められる制作物を多く扱っており、誤りの一つひとつが製品の信頼性に直結します。また、修正回数が増えるほど指定外変化、つまり赤字指定されていない箇所での意図せぬ変化が発生するリスクも高まります。そのため、人による目視校正だけに頼らず、機械検査を組み合わせた多層的な検査体制が不可欠であると考えています。

## ■目的に応じた4つのツールの使い分け

当社では「Proof Checker Pro」「BitMatch Premium」「Collate Pro」「Just Right! 連携プラグイン for InDesign」の4種類の検査ソフトを導入し、工程と目的に応じて使い分けることで、制作工程における自動校正システムを構築しています。

たとえば、お客様支給のWord原稿をInDesignに流し込んだ段階では、Collate Proで文字情報の取り込み状態を確認し、赤字戻し後の検版にはProof Checker Proを使用します。また、原寸ではないPDFが戻ってきた場合にはBitMatch Premiumを使用する、テキスト入力を行った際にJust Right! で文章校正を行うなど、それぞれが得意とする検査領域を見極めながら、ひとつの工程に複数のツールを組み合わせることも少なくありません。

それぞれの校正ツールの機能や特長はウラ面にまとめています。

## ■人の手では難しい作業も可能に

自動校正システムは、人の目では見落としやすい細かな相違や、膨大な修正箇所を機械的かつ網羅的に検出できる点が最大の強みです。ベースラインのわずかなズレ、フォントウエイトの違い、半角/全角の混在など、目視では拾いきれない微差も漏れなく可視化することができます。

一方で、手書きで記入された赤字の認識や、誌面としてのレイアウトバランス、色使いの美しさといった「質」の判断は、なお人の目に委ねられています。これらは機械で検査することが難しく、最終判断を下すのは人の役割です。当社では、機械検査で「漏れなく拾い上げ」、人の目で「最終的に判断する」という役割分担を徹底することで、検査の精度と速度を両立させ、安定した校正品質を実現しています。

## ■お客様の信頼に応える品質体制

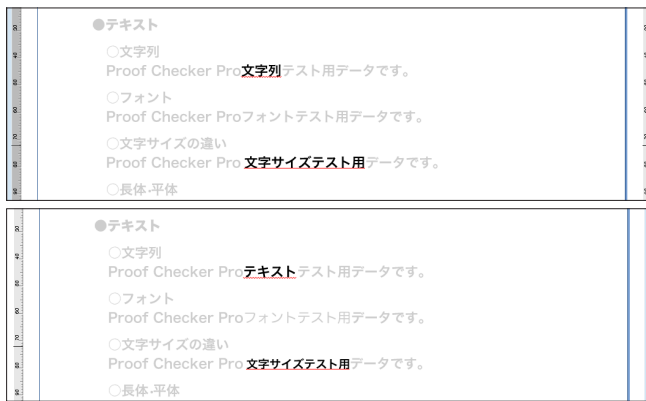
複数の検査ツールを併用することで、修正漏れや赤字外変化、Word原稿取り込み時の文字化け、表記のゆれ、指定字体の徹底など、多角的な確認が可能になりました。これにより、責了直前まで残ってしまいがちな小さな不具合を早い段階で吸収でき、事故防止と、三校・四校といった校正回数を減らすことにもつながっています。また、副次的な効果として、納期短縮やコストの低減、お客様側の確認負担の軽減も実現しています。

当社では現状の体制に満足することなく、新しい検査ツールや手法の検証も継続して行っており、案件特性に合わせた最適な組み合わせを常にアップデートしています。今後も、自動校正システムと人の目、それぞれの強みを掛け合わせ、お客様に安心してお任せいただける制作品質の提供に努めてまいります。



## Proof Checker Pro

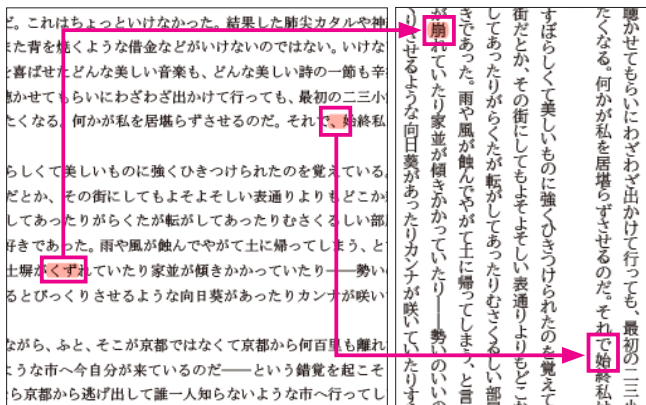
PDF同士をオブジェクト単位で比較し、テキストの相違・フォント変更・色変更・位置移動などを「種類ごとに色分け」して明示する検版ソフトです。文字の違いは赤い波線、フォントの違いは赤い斜線、文字色の違いは緑の斜線、サイズの違いは赤い下線……というように、差異の性質を視覚的に分類して表示。単純な画像差分ではないため、修正の判断が的確に行えます。PDF文書単位での検査が可能で、ページ挿入・削除があってもページ間同期機能で正しく対応。当社では責了前までの組版工程で、赤字修正後の検版や指定外変化の検出に使用しています。



差分の内容によって赤下線や赤波線など指摘方法が変化する

## Collate Pro

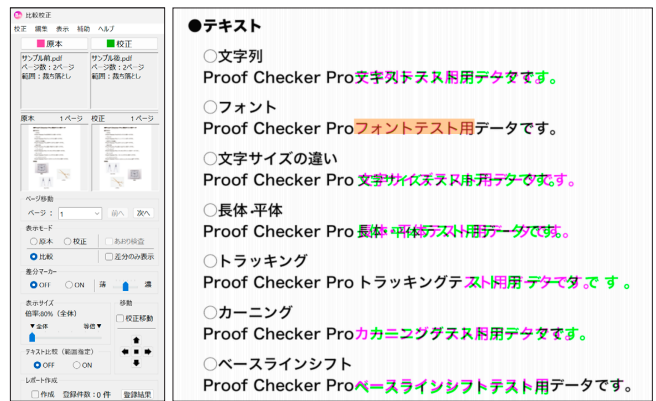
レイアウトもファイル形式も異なる文書同士の文字情報を、機械的に比較できるドキュメント差分検出ソフトです。Word・Excel・PowerPoint・テキスト・PDFなど多様な形式に対応し、原稿と組版後データの照合や、電子書籍と底本の照合などに活用できます。さらに、未習漢字・指定字体・全角／半角約物などを一括マーキングする機能も備えており、看護・医療系書籍の字体指定や、児童書の漢字レベルチェックなどにも応用可能。当社ではWord支給原稿のInDesign取り込みチェックや、自動組版の設計検証にも使用しています。



テキスト原稿とInDesign文書の差分をマーカーで指摘してくれる

## BitMatch Premium

2つのPDFを重ね合わせ、差異のある箇所を色付けして表示する検版ソフトです。原本と校正のサイズが異なる場合でもTrimBox参照や「サイズ合わせ機能」でピッタリ重ねられるため、トンボ付き・なしの混在や、お客様から戻ってきた赤字原稿が原寸ではない場合などにも検査が可能。差分マーカーで変更箇所がカラフルに点滅し、小さな文字や位置ズレも見逃しません。次工程への申し送りをPDF出力できるレポート作成機能も備えています。当社ではProof Checker Proで照合できないケースの補助検査として活用しています。



差分箇所は赤と緑で表示され微細な変更点も確認しやすい

## Just Right! 連携プラグイン for InDesign

InDesignにアドインして、文章校正ソフト「Just Right!」の機能呼び出せるプラグインです。別アプリケーションを立ち上げる必要がなく、InDesign上で文章チェックが可能となります。誤変換・閉じ開き・送り仮名・余字・句読点・字種統一・慣用表現・二重敬語などを指摘し、ドキュメント内の全ストーリーに渡る表記ゆれも一括チェックできます。指摘内容を別レイヤーやPDFに書き出せるため、外部への作業指示にも便利です。当社では大量の赤字修正後のタイピングミス検出や、文章全体の表記統一に活用しています。

1. 調査対象	3. 結
<p>米国骨代謝学会の報告(2013年版)<sup>15)</sup>に従って以下に当てはまる例を調査対象とした。</p> <p>1) 対象の骨折：小転子遠位部直下から顆上部の直上までに生じる骨折の<b>様態</b>、下記5項目のなかで4項目を満たす例。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外傷なしか、立った高さからの転倒時のような軽微な外傷による(交通事故、転落などは除外)。</li> <li>骨折線は外側骨皮質に生じ、多くが横走するが、大腿骨内側へ骨折線が及ぶにしたがって斜めになる場合もある。</li> <li>完全骨折では<b>骨</b>・外側骨皮質を貫通し、内側スパイクを認めることがある；不完全骨折の場合は外側のみが生じる。</li> </ul>	<p>1) 症例数 調査期間中に722例759年10月31日までに返信分 外傷例、病的骨折を除外し 対象とした(表1)。</p> <p>性別は男性50例、女性 例、年齢は44~100歳(平均 骨折例は左329骨折、右 し0骨折であった。両側例 2024年に両側発生したのは</p> <p>2) 受傷原因 明らかな外因なく骨折し</p>

JustRight!で指摘された箇所は別レイヤーに書き出すことが可能